

平成29年度男女共同参画推進室事業報告

はじめに

男女共同参画推進室は、平成22年2月に設置され、平成23年4月に完成した多目的保育施設「たけのこ」を拠点に、男女共同参画推進のための各種支援を行なっている。

平成25年4月からは学則上の組織として位置付けられ、女性研究者の活動支援の充実と男女共同参画の推進を図ってきた。また、平成28年4月から浜松キャンパス内に分室を設置し、同キャンパスにおける男女共同参画推進の拠点とした。

推進室では、「女性研究者支援モデル育成事業（平成20～22年度）」の採択を経て、平成25年度には「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）（～平成27年度）」（以下、「拠点型事業」という。）にも採択され、平成28年度からは、拠点型事業の継続事業として、これまで取組んできた研究者支援とワークライフバランスの推進に引き続き努めるとともに、地域の拠点として研究者支援策の普及に一層努めている。

本年度は、拠点型事業の継続事業(2年目)と、平成28年度に採択された「JST女子中高生の理系進路選択支援プログラム（～29年度）」を引き続き実施した。また、浜松分室会議での議論を経て、本学の一時保育支援制度の見直しを行い、平成30年度からは改正された実施要項に基づき保育支援を行なうこととなった。

ここに平成29年度の取組を総括し、平成30年度への課題を述べる。

1. 第3期行動計画

男女共同参画憲章（平成20年制定）に基づく第3期の行動計画（平成28～30年度）の2年目として、引き続き計画の遂行に務めた。

2. 第3期中期目標・中期計画への対応

平成28年度から第3期中期目標・中期計画が開始され、推進室においても中期計画の平成29年度計画に基づき活動を展開した。

(1) 中期計画60番（女性教員採用加速システム（人件費支援等）を活用して女性教員比率16%以上とする。また、役員は1名以上、管理職は13%以上の女性を登用する。）

① 女性研究者（教育者）採用状況

女性教員の採用が増進することを目的とした「女性教員採用加速システム実施要項」及び「ガイドライン」の適用者は無かった。

【本年度の実績】

平成29年4月1日から平成30年3月31日までの1年間に18名の教員（常勤のみ）が採用され、そのうち女性教員は3名であった（女性教員採用比率16.7%）。

② 女性教職員の管理職への登用状況

本年度の登用状況は以下のとおりであった。

- 経営協議会における女性委員・・・2名
- 教員の女性管理職・・・副学長1名、学長補佐1名
- 事務局の女性管理職・・・課長級2名
- 事務局の女性準管理職・・・副課長2名
・・・専門員1名

(2) 中期計画61番（男女共同参画憲章に基づく行動計画により、セミナー、シンポジウム、研修、ホームページの充実やニュースレターの発行等を通し、第2期中期目標期間に引き続き啓発を行う。）

・平成28年度に終了した拠点型事業への参加連携機関及び本学が中心となり実施した「男女共

同参画のための共同宣言」に参加した連携機関を含めて立ち上げた「しずおかレインボーネットワーク」の定例交流会を開催して、引き続き男女共同参画に関する課題認識と意見交換及び情報共有を進めた。（7月6日、10月31日、2月23日開催）

- ・日本大学薬学部・薬学研究所上席研究員大坪久子氏を講師に招き、Unconscious Bias セミナー「無意識のバイアスとは何か」を開催した（7月6日、25名参加）。
- ・国立情報学研究所コンテンツ科学研究系准教授坊農真弓氏を講師に招き、「女性研究者のリアル～出産育児と不妊治療に焦点化して」を開催した（10月31日、14名参加）。
- ・推進室主催のメンタリング事業として、毎週木曜に「たけのこ cafe」（浜松キャンパスは10月から毎週金曜）を開催し、教職員のメンタリング支援の一助とした。（静岡キャンパス38回開催、浜松キャンパス14回開催）また、新任教員メンター研修を開催（静岡10月19日、浜松1月17日）した。さらに、3月2日には産前産後休暇・育児休業取得後の職務復帰職員（予定者含む。）を主な対象としてスタート・ワーク・アゲインミーティングを開催し、学内制度や公共の子育て支援等について意見交換や情報交換を行って理解を深め、子育てや職務復帰時等の不安解消の一助とした。（参加者3名）
- ・平成29年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に申請したが、面接審査の結果不採択となった。

(3) 中期計画62番（支援的職場環境を醸成するため、各種制度の充実に取り組むとともに、性別に関わりなく支援制度の利用を拡大する。）

- ・本学が平成28年4月から運用を開始した子育て支援関係の各要項について、本年度も全教職員に周知を行った。また、浜松キャンパスにおける一時保育支援のあり方について検討を進めた結果、「静岡大学一時保育支援制度実施要項」を改正(H30.4.1 実施)し、教職員の保育支援を充実させることとなった。
- ・男女共同参画相談員を各部局に配置するとともに、ポスター掲示による学内周知を図った。
- ・浜松キャンパスにおいて学童保育所を開設し、教職員の就業支援を図った。（夏季学童保育教職員利用者：21名（児童28名）、春季学童保育所教職員利用者：5名（児童8名））
- ・子育て支援の一環として、昨年度に引き続き本年度も入試業務従事時における一時保育費用の全額を大学が負担することとした。
- ・女性研究者による連携研究支援経費の公募を行い、3名に研究費の支援を行った。
- ・2名の若手女性研究者に対し、論文投稿経費等の支援を行った。
- ・ワークライフバランスを考慮した教職員の計画的な休暇の取得等について7月及び12月開催の事務協議会において説明を行い、学内における啓発を図った。
- ・8月を「ワークライフバランス強化月間」として、ポスター等により全学一斉休業日、ノー残業推進週間を周知した。
- ・学内会議の適切な運営等について、会議時間の設定、休憩時間の確保やテレビ会議システム及びメール会議の積極的な利用とあわせ、議題及び会議資料の事前周知により効果的な会議運営へ改善を図るよう各部局に文書で通知するとともに、併せてポスターの掲示を依頼し、ワークライフバランス確保の一助とした。また、役員からも教育研究評議会の席上で取組が浸透するよう依頼を行った。
- ・本学の「女活法行動計画」に基づき、男性の育休取得率が向上しない現状や時間外労働発生の要因、また、本学における男女共同参画推進活動の認知度等を確認するため、学内アンケートを実施した。

3. 男女共同参画推進室の活動状況

(1) 浜松学童保育（愛称「キッズ・ラボ」）の実施

夏休みと春休みの長期休暇期間中に実施している学童保育は、本学関係者以外の利用も多く、社会的評価が定着している。運営は、平成25年春休み（平成24年度事業）から、安定的運営と効率化のため、外部委託しているが、平成29年度も入札により委託先を「特定非営利活動法人浜松男女共同参画推進協会」に決定し、委託契約を締結した。

契約額は、3,259,440円であったが、利用料収入が2,515,000円あったので、本学の負担額は、

744,440円であった。

夏休みは、平成29年7月25日～8月31日の土曜日、日曜日と大学の一斉休業日を除く25日間実施し、44名の参加（申し込みが定員を超えたため選考を行い、本学関係者の児童26名と学外からの児童18名に入所を許可）があった。

春休みは、平成30年3月22日～4月6日の土曜日、日曜日を除く12日間実施し、22名の参加（本学関係者の児童6名の他に学外からの児童16名に入所を許可）があった。

(2) 静岡多目的保育施設（愛称「たけのこ」）の運営

平成29年度1年間の利用実績は、一時保育延112名、授乳延37名、学内外からの施設見学16名、ゼミ等利用延156名、その他ミーティングや打合せ・相談など延68名、推進室の会議（定例、臨時）が11回行われた。また、子育て支援事業では、アイセル21を会場として地域のこどもの預け先についての座談会を開催した。なお、平成29年度は、緊急時（学級閉鎖）の利用はなかった。

・教育学部開講の「アートとコミュニケーション」の受講生の手により、多目的保育施設「たけのこ」の壁及び天井が改装され、保育環境の整備が図られた。

(3) 相談窓口

平成24年度から、各部局の男女共同参画推進委員が相談窓口となるシステムに変更し、平成29年度は延57件の相談があった。

(4) 研究支援員制度

平成25年度より募集を通年とし、募集も随時の受付として制度運用の要件を緩和する一方で、報告義務を強化した。平成29年度は、6名の研究者に6名の支援員を、週当たり延57時間配置した。これにより、研究支援員を配置した教員の研究の進捗と効率化が図れるとともに、ワークライフバランスの推進に寄与した。

(5) 学会参加時保育支援制度の拡大

入試業務に従事するときも保育支援がほしいという要望に応じて、平成25年度から入試業務にも適用できるよう制度を改め、平成29年度は入試業務で6名の教職員から8件の利用があった。また、入試業務における一時保育支援費用は、全学入試委員会からの要望を踏まえ、平成28年度から全額を負担することとし、本年度も同様の取扱いとした。

(6) メンター制度

新任の女性教員及び希望する男性教員に対してメンターをマッチングさせ、3名に対してメンターを割り当てた。また、静岡・浜松両キャンパスにおいて、新任教員メンター研修を実施した。

(7) 休業・休暇制度の利用

平成29年度中に育児休業を取得した教職員は25名（うち平成29年度に新たに取得した者は13名）で、女性23名、男性2名であった。また、復帰後の育児短時間勤務の利用者は4名であった。

平成24年度より、特別休暇の一つとして、リプロダクティブヘルス休暇の制度を導入し、不妊治療等での休暇取得を可能としているが、平成29年度の利用者は6名であった。

4. 学生、中高生への啓発事業

(1) 学際科目

静岡・浜松両キャンパスで「ジェンダーからみる現代社会」を開講し、受講者は合計157名（静岡117名、浜松40名）であった。社会人7名を招き、キャリアセミナーを6回設けた。

(2) ジェンダー関連科目の広報

ニュースレター及び学内掲示板により、ジェンダーに関連する授業をリストアップして広報し、学生の受講を勧めた。

(3) オープンキャンパス

8月9日(水)に予定していた浜松オープンキャンパスでの工学部と情報学部は、台風接近の影響で中止となったが、8月10日(木)の静岡オープンキャンパスでは、理学部と農学部において女子在学生による「女子高校生進学相談コーナー」を開設した。

女子高校生からの相談者数は、理学部8名、農学部90名の合計98名であった。また、同行の保護者からの相談にも応じた。

(4) 出前授業

7月25日(火)に西遠女子学園高校学校(浜松市中区、対象は高校1年生)へ農学部教員が出前授業に出向いた。(参加者62名)

このほか、男女共同参画推進室の斡旋により工学部及び情報学部の教員が担当し、リケしず出前授業を静岡英和女学院中学校、常葉大学橘高校、常葉大学菊川高校で実施した。(参加者合計425名)

(5) 科学技術振興機構「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」

理系女子夢みつけ★応援プロジェクト in しずおか(通称:リケしず)

地域と連携して、中高生の進路選択を支援する各種イベントを開催した(詳細は、6. 地域と連携した男女共同参画に記載)。

5. 意識改革事業

(1) 新入生への啓発

平成28年度の新入生から、紙媒体での資料配付を取り止め、WEB上での情報提供に切り替えることとした。

(2) キャンパス・フェスタ in 静岡(11月18日~19日)

ジェンダー・パネル展を多目的保育施設「たけのこ」において開催し、地域住民をはじめとする来場者に本学の状況を紹介し、ジェンダーへの関心を持ってもらう一助とした。(来場者37名)

6. 地域と連携した男女共同参画

(1) 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業(拠点型)」の継続事業

・しずおかレインボーネットワークの運営

平成27年度に終了した拠点型事業に参画した大学・企業等を中心に新たに本学を含め13機関で平成28年度に発足し、定例交流会を3回開催した。

交流会の目的は、拠点型事業で連携機関と協同展開した、意識改革と啓発、ワークライフバランスの推進、研究能力の向上と裾野の拡大、女性研究者の登用、推進手法と体制の整備、の各項目の継続的な普及である。

・女性研究者支援活動として、以下の事業を行った。

① 女性研究者連携研究支援経費・・・3名に支援を行った。

② 論文投稿支援制度・・・2名に支援を行った。

・平成25年度に開設した女性研究者研究活動支援事業(拠点型)専用のホームページを運営し、学内外に事業概要等を発信した。

(2) 科学技術振興機構「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」

理系女子夢みつけ★応援プロジェクト in しずおか(通称:リケしず)

科学技術振興機構の補助金を獲得して、中高生の進路選択を支援する各種イベントを昨年度に引き続き開催した。

・シンポジウム・講演会・交流会の開催

シンポジウムでは、昨年度に引き続きこれから進路を考える女子中高生に向けて、理系学部で学べることを紹介した後、女性研究者の講演を行ったほか、現役の女子大学生・高専生・大学院生が相談員やパネラーとなり、参加者からの質問に答えるなど、理系への進路選択を検討する一助とした。（浜松地区4月1日開催・34名参加、静岡地区7月22日開催・39名参加、12月17日開催・38名参加、三島地区7月28日開催・21名参加）。

また、静岡市葵生涯学習センターと共催で「教えて先輩理系女子のおしごと」を開催し、ロールモデルを示して理系進路選択への助言を行った。（2月4日開催・参加者160名）

・進路相談会の開催

詳細は、「4. 学生、中高生への啓発事業 (3) オープンキャンパス」に掲載した。本プロジェクトの自己資金負担運営事業に位置づけている。

・体験実験の開催

大学で行う実験や研究室見学を教育学部（11月18日）、情報学部（11月11日）、理学部（11月19日）、工学部（11月11日）、農学部（11月19日）で開催した。女子中高校生の参加者数は、教育学部4名、情報学部2名、理学部9名、農学部6名、工学部3名の合計24名であった。なお、同伴した保護者も一緒に参加した。

・企業・研究機関見学会の開催

理系進路選択後に就く職業を知る企業・研究機関見学会を、東部・中部・西部の各地区で開催した。東部地区は、旭化成株式会社富士支社において12月26日に開催し、4名が参加した。中部地区は、808ファクトリーにおいて8月23日に開催し、15名が参加した。西部地区は、スズキ株式会社において3月27日に開催し、10名が参加した。

・出前授業の実施

静岡新聞社「Future 静岡出前授業」とタイアップし、当推進室の幹旋分(4校)含め県内中学校15校で出前授業を実施した。全体で女子中高生1923名、教員127名が参加した。

なお、JST女子中高生の理系進路選択支援プログラム（リケしず）の事業終了にあたり、本事業の継続に賛同する11の連携機関と連名で、『「リケしず」を継続するための共同宣言』を発表し、引き続き事業活動を行っていくこととした。

(3) 子育て支援事業の実施

育休及び育児中の教職員を対象に、「スタート・ワーク・アゲインミーティング」を開催した。（3月2日（金）開催、職員3名と幼児1名が参加）

参加者からは、今後も定期的に多彩な子育て支援イベントを開催してほしいとの声が寄せられ、新年度から、育児や介護について自由に意見交換が出来る座談会を定期的に開くこととした。

7. その他

(1) 外部からの定期的調査への回答

- ① 国大協調査、
- ② 文科省・JST調査（アンケート）
- ③ 静岡県
- ④ 他機関の訪問調査対応 等

(2) 外部からの要請への対応

- ① ジェンダーサミット10に出席（平成29年5月25日～26日）
- ② しずおか男女共同参画推進会議に参加（8月8日、10月24日）
- ③ 男女共同参画推進フォーラム（NWE Cフォーラム）に参加（8月25日～27日）
- ④ ふじのくに男女共同参画防災ネットワーク会議に参加（9月13日）
- ⑤ 男女共同参画学協会連絡会に参加し、本学の取組みをポスター紹介（宮崎分室長 10月14日）

- ⑥ 独立行政法人国立女性教育会館主催「大学等における男女共同参画推進セミナー」に参加
(11月30日～12月1日)
- ⑦ 天城学長会議第1回日本橋会議に出席(11月21日)
- ⑧ 「平成29年度科学技術人材育成費補助事業フォーラム-研究力強化に向けた女性研究者の活躍促進-」に出席(3月2日)
- ⑨ 武庫川女子大学において「リケしずプロジェクト」の活動について講演。(3月17日)

(3) 発信

- ① ホームページを随時更新した。
- ② ニュースレターを4回発行した。
- ③ ポスター、メール配信、ガールーン掲示板を活用して男女共同参画推進に関する情報提供を行った。
- ④ 図書館下の学務部掲示板の一角を男女共同参画コーナーとして、学生に情報を発信した。

(4) 推進体制

- ① 男女共同参画推進委員会(7回開催。内3回はメール審議)
委員会に1つの小委員会と3つのワーキング会議を置き、課題に対する検討と集中審議を行う体勢を整えた。
 - ・研究支援員制度運用小委員会(2回開催。内1回はメール会議)
 - ・外部資金獲得準備WG
 - ・国際連携・学生向け事業検討WG
 - ・浜松分室運営検討WG(浜松キャンパスにおける男女共同参画の課題を検討(2回開催))
- ② 男女共同参画推進室会議
室長及び室員による検討会議を13回開催

8. 今後の課題

平成30年度も、①意識改革、②女性の採用と登用、③ワークライフバランス、④学生向け事業、⑤地域連携事業という<5つのアジェンダ>を着実に進めていく。

第3期中期目標・中期計画の3年目となるため、中期計画に基づいて計画を進め、積極的な事業展開を図りながら、学内の各組織とも連携して学びやすく働きやすい大学を目指し、地域における拠点機関として、静岡大学の発展の一端を担っていく。

また、「拠点型事業」や「リケしず事業」により構築された地域とのつながりをもとに、諸事業の一層の推進を図る。